

学校教育目標	「ひびき合い ともに よりよく生きる」	
	【知】自ら課題を発見し、考えを深めながらよりよく解決していく子を育てます。 【徳】自分も身近な人も大切にし、思いやりのある優しい心をもつ子を育てます。 【体】体を鍛え、自他の生命や体を大切にすることを育てます。 【公】自分と身近な人・もの・ことにかかわり、集団の一員として役に立とうとする子を育てます。 【開】自分から様々な人とふれ合い、共に生きていこうとする子を育てます。	【問題解決力、関心・意欲・態度】 【人権尊重、あいさつ、思いやり】 【生命尊重、自己の体力づくり】 【社会参画、他者への貢献、自尊感情】 【コミュニケーション、共生、他者理解】

学校概要	創立 44 周年	学校長 高島 聡	副校長 宮田 貴子	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 567 人	主な関係校: 谷本中 つつじが丘小 谷本小 さつきが丘小 緑が丘中学校 山下小学校 山下みどり台小学			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	谷本中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
①人・もの・こととのかかわりを通して、豊かなコミュニケーション力をもつ子ども【言語活用能力】 ②人と豊かにかかわり、自他を認め合いながら、ともに学ぶ子ども【認め合う力】	谷本中学校 谷本小学校 つつじが丘小学校 藤が丘小学校 さつきが丘小学校	笑顔であいさつ～自分を認め 相手を認め～ 【言語活用能力】【認め合う力】の育成に向けて、次の取組を進める。 ブロック小・中学校の朝会等で「笑顔であいさつ」の児童生徒への周知、小中合同授業研究会(谷本中学校、さつきが丘中学校)、谷本中職場体験の受け入れ、児童生徒交流日、中学校教諭による小学校での授業、部活動体験、中学校吹奏楽部の演奏鑑賞等。

中期取組目標	◎学校教育目標「ひびき合い、ともによりよく生きる」の具現化
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え判断し、主体者意識をもって行動できる力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」となる問題解決的な授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。</li> <li>・特別支援教育の視点から、子ども一人ひとりが安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。</li> <li>・保護者や地域と連携し、安心・安全・信頼に応える学校づくりを進めます。</li> <li>・教職員としての自覚をもち、相互の信頼と協働性にも基づく組織的な取組を進め、授業力向上、児童理解に関わる指導力向上など教育についての専門性を高め、切磋琢磨していきます。</li> <li>・明るく伸びやかに生活し、自分や他者の良さを認め合い、いじめを許さない学校風土を醸成していきます。</li> </ul>

重点取組分野	具体的取組(★は臨時休校等に起因する取組)
<b>確かな学力</b>	①日々の授業を大切に、「藤小共通指導ガイドライン」(経営計画巻末掲載)を基盤にして、それぞれの教員が自分の持ち味を生かしながら、新教育課程をにらみ、問題解決的で対話的、主体的な学びを実践できるようにし、全ての児童が安心して学べるようにする。 ②共同研究を通して日常的に授業を見合い、学校教育目標に迫ることのできる授業づくりに協力して取り組んでいく。教職員の自主性を重んじた研究を推進する。 ③言語活動をより取り入れた授業展開を共有し、コミュニケーション力を育成する。 ★以上の取組に加え、臨時休校でマイナスとなった教育環境や教育活動を効率的かつ、個に応じて取り戻せるような授業づくりを行う(学習環境整備参照)。
担当 重点推進委員会、学力・評価部会	
<b>豊かな心</b>	①Y-Pアセスメントを早期に完成させ、クラスの実態を把握した上で、学年で共有し丁寧な指導を心がける。 ②挨拶の定着について、小中ブロックで協力しながら、地域や近隣校一体となった取組を進めていく。より自発的に、その場に応じたものが出来るようになるための支援を進めていく。 ③特別の教科「道徳」の実施に伴い、評価の観点や評価の仕方の研修を行い、指導と評価を一体化させる。必要に応じて授業を伴うものにする。 ★年間を通して、子どもたちのメンタルストレスや悩み等に対応し、子どもたちの不安を取り除く。
担当 子ども支援委員会	
<b>健やかな体</b>	①体育授業や行事などのたびに、健康な身体の大切さや自分の健康に関心をもつ事を気付かせていきたい。 ②児童保健委員会や学校づくり委員会などで、子どもの運動をテーマに折にふれて実態等を出し合い、本校の実態に合わせた形で取り組める実践を決定し、その都度取り組んでいく。 ③保健領域の担任・養護教諭の授業連携をさらに深める。 ★全教育活動を通じて、感染症の防止、予防方法について指導を積み重ねる。
担当 健康・環境委員会	
<b>児童生徒指導</b>	①児童指導や児童理解を全職員で共有し、専任を中心とした児童指導の組織化を進めていく。具体的には、学年主任を中心として児童指導を行い、必要な状況に応じて専任が関わる体制を維持・継続していく。 ②あらゆる場面において活躍する児童を賞賛し、自尊感情を高め、児童が持っている良さやリーダー性を引き出していく。 ★今年度は児童のメンタルが不安定になりがちであると考えられる。教員同士で情報を共有し合い、保護者とも協力して早めに心の不安を取り除く。
担当 子ども支援委員会、学年研究会	
<b>特別支援教育</b>	①専任や特別支援コーディネーターの資格を保有している職員を中心に、必要に応じてケース会議を開き、困り感のある児童の支援体制を共有していく。 ②担任と専任が児童理解について連絡を密にとり、外部機関との連携をふくめ、取り出し(フジベン)やITなど、あらゆる可能性について迅速に対応できるようにする。特に、R元年度は「特別支援教育実践推進校」となったため、授業時数や各種研修参加の機会を有効に活用する。 ③ユニバーサルデザインの有効性を共有するとともに、教師個々の自主性を重んじていく。 ④学区内外から100名弱の児童を受け入れる「ことほの教室」においては、専門性を生かし、保護者・児童の困り感に寄り添う指導をきめ細かく行うとともに、そのスキルを一般学級の指導にも広げられるようにする。 ★長い休校に起因する学力格差が広がることが懸念される。学習状況に応じて、専任を中心に早期対応できるようにする。
担当 特別支援教育校内委員会	
<b>学習環境整備 ICT活用</b>	①通常の学習環境(教室、廊下、体育館、校庭)の安全に全職員が気を配るとともに、授業に必要な物は計画的に予算を組み、児童の学習環境がより良くなるようにする。校地内の樹木の剪定や害虫駆除に気を配り、児童が安心して学校生活を送れるようにする。 ②感染症の防止を常に意識し、施設の消毒や衛生的で密にならない学習環境作りを心がける。 ★「主体的、対話的で深い学び」をめざすだけでなく、具体的な子どもの姿から、生きる力を育む藤小の軸はぶらさず、オンラインの可能性(保護者対話、児童授業、教材活用等)や問題点(学校-家庭のWiFiやパソコンなどの環境、教育の平等、活用機会等)を情報収集し、できることにチャレンジしていく
担当 管理職・主幹会・学年研	
<b>学校運営協議会</b>	①学校の運営について、これまで通り、深いご意見をいただくとともに同じ方向性をもって進んでいけるようにする。また、2年目となった谷本中ブロックでの学校運営協議会で、より小中ブロックを意識したご意見をいただけるため、それを学校運営に着実に生かしていく。 ②委嘱する委員の異動が迫ってきているので、引き継ぎを踏まえ、この1年間の会議内容に見直しをもちながら進めていく。 ③地域の人材を授業に関わらせていただくことで、学校と地域の繋がりをよりいっそう深めていく。 ★会合の減少等が心配されるが、書面での情報伝達を中心に、ご意見がいただけるような工夫をしていく。
担当 管理職・主幹会	
<b>R1年度学校評価の結果からの重点取組</b>	昨年度の学校評価アンケートで、他のアンケートからみると比較的数字が低かったものを日頃の指導の上での重点取組と位置づけ、少しずつ、継続的に指導をしていく。上記の重点取組と重なるところもあるが、あえて別の取組として目標設定し、年度末に評価をしていきたい。今年度は、① 授業の充実 ② 気持ちを込めたあいさつ ③ 読書活動の、3点に絞る。
担当 教職員全体	
<b>いじめへの対応</b>	①日頃の教科学習や行事・特活等の中で、お互いを理解し、認め合うことを基盤にしながら学習を進められるようにし、共同の学びを重んじて人権意識を根付かせるようにする。 ②児童支援専任を中心に、子どもの様子を常に気を配り、情報共有をするとともに、保護者との連携も密にしながら日々の教育活動を進めていく。 ③「藤が丘小学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速かつ組織的な対応を確実に行う。 ★今年度は児童のメンタルが不安定になりがちであると考えられる。教員同士で情報を共有し合い、保護者とも協力して早めに心の不安を取り除いていく。
担当 いじめ防止対策校内委員会	
<b>人材育成・組織運営(働き方改革)</b>	①メンターチームで行うことを、さらに全職員に発信し、多方面から指導・助言をいただく場とする。また、教師個々の自主的、自律的な研究、切磋琢磨する雰囲気も大切にしたい。 ②経験豊富な職員が、必要に応じて自ら実践を示すなど、経験の浅い教師が日頃の疑問や不安を解消する場とする。 ③毎週の学年研を学校経営の中核と位置づけ、計画的、意図的に授業や行事が行われるようにし、学年主任を中心とした学年組織を強化していく。 ④引き続き、会議の精選、ミライムの活用、仕事環境の改善等の工夫を行い、業務の効率化を図る。その際個々の自律的なモチベーションを高めることを大切にしたい。 ★必要に応じて、教育動画の作成、オンライン会議や会議そのものの精選に積極的に取り組んでいく。
担当 管理職・教務部・全職員	